

公益財団法人 大学セミナーハウス

第5回EUセミナー

EUの新たな試練

——英国のEU離脱後のヨーロッパ——

日時：2016年9月23日(金)～9月25日(日)

会場：大学セミナーハウス (東京都八王子市下柚木 1987-1)

開催趣旨：

本年はEUの現状を複眼的に考察し、EUがどのように新たな試みを行おうとしているのか、をテーマとする。昨年大きく取り上げられた難民・テロをはじめとして、毎年話題となるギリシャ財政危機とEU通貨・財政政策の行方、そしてイギリスのEU離脱をめぐる国民投票の影響などはEUが直面する当面の大きな課題である。難民・テロ問題はシェンゲン条約の法的枠組み、EU市民、排外主義など人の移動をめぐるさまざまな課題をあらためて浮き彫りにしている。



特別講演

「EUの今後」(仮題)

講演者：

駐日欧州連合代表部 公使/副代表 (予定)

開催要項

募集人員：80名(先着順)

対象：EUを学ぶ大学生と社会人

参加費：会員校学生 10,000円

非会員校学生 12,000円

社会人 14,000円

*参加費には宿泊・食事・資料代、消費税を含みます。

*宿舎は相部屋です。

申込方法：「大学セミナーハウス」HPの申込フォームよりお申し込みください。

申込締切：9月15日(木)

問合せ先：大学セミナーハウス セミナーグループ

電話：042-676-8532 FAX：042-678-2601

Mail：seminar-g@seminarhouse.or.jp

事前課題について

参加にあたっては、**事前課題**と**参考文献**を必ずHPでご確認ください。

スケジュールについて

9月23日(金) 受付・集合 17時～18時

*集合時間に間に合わない方はご連絡ください。

9月25日(日) 閉会 16時予定

*スケジュールの詳細は確定メール、またはHPをご覧ください。

主催：公益財団法人大学セミナーハウス

後援：駐日欧州連合代表部

★第5回EUセミナー 分科会講師紹介

★第1分科会 EU経済と連帯



田中 素香
中央大学経済研究所
客員研究員
東北大学名誉教授



太田 瑞希子
亜細亜大学
国際関係学部講師

ユーロ共通通貨圏は2010年から12年までユーロ危機に襲われた。直撃された南欧諸国は不況・大量失業・デフレに見舞われ、危機後も経済の困難が続く。ユーロ圏は今日も低い経済成長と南欧諸国の大量失業に悩まされている。イギリスのEU輸出は落ち込み、同国のEU離脱運動を強める要因ともなった。EU域内の人の自由移動を保証するシェンゲン協定も難民大量流入に対するEU加盟国のバラバラの対応により一時的に停止されている。このようにEU統合に逆行する動きが強まっている。ユーロ圏の北部先進諸国がEU・ユーロ圏を通じて南欧を支援するなど連帯行動によって統合の逆行を食い止めなければならない。EUは財政同盟の構想を打ち出している。第1分科会では経済を中心に統合背反的な動きと連帯行動の関係を基軸として、経済統合の現状と課題について考える。

★第2分科会 EUの域内格差と地域政策



蓮見 雄
立正大学経済学部教授

ユーロ危機の根底には域内格差がある。EUでは、市場統合とともに、連帯を強化するためにEU地域政策の改革が進められ、中東欧諸国のキャッチアップなどの成果を生んだ。だが依然として、人的資源やインフラなど発展の基礎的な条件を欠いている地域が多数残されている。経済格差は、EU不信やナショナリズムを助長し、EUの連帯を妨げている。そこで、この分科会では、地域格差とEU地域政策の検討を通じてEUの将来を考えてみたい。

★第3分科会 EUの移民・難民—シェンゲン圏と法



中西 優美子
一橋大学大学院法学研究科教授

まず、なぜEUの移民・難民制度が誕生したのかを理解する。次に、EUにおける移民・難民制度がどのようになっているかを学ぶ。特にEU運営条約第5編「自由、安全および司法に関する領域」の第2章「国境管理、難民および移民に関する政策」とそれに基づいて採択された措置について把握する。そのうえで、EUの移民・難民制度の可能性と限界について議論し、EU移民・難民問題における法（制度）と政策（現実）の交錯を考える。

★第4分科会 EU市民社会の連帯とリスク



福田 耕治
早稲田大学
政治経済学術院教授
日本EU学会理事長



押村 高
青山学院大学
国際政治経済学部教授

EUは、ユーロ危機、難民・移民危機、テロなど多様かつ深刻なリスクに直面している。自由、人権、寛容、民主主義などの高邁な理念のもとに進められてきたEU統合が、いま、なぜ頓挫しつつあるのか。欧州社会は引き裂かれ、欧州懐疑派の伸張、EU脱退論も噴出し、デモクラシーや連帯が危機的な状況を呈しているのは、なぜであろうか。本分科会では、欧州社会の格差拡大と貧困、労働市場の分断と社会的排除の深刻化など、テロリズムの温床ともなるリスクを生み出した背景には何があるのか、事例や根拠に基づいて議論したいと思います。

★第5分科会 テロと排外主義



渡邊 啓貴
EUセミナー企画委員長
東京外国語大学
国際関係研究所長・教授



小久保 康之
東洋英和女学院大学
国際社会学部教授

昨年二回にわたるパリのテロ事件や今春のブリュッセルでのテロ事件は、「ホーム・グロウン(現地出身)テロリスト」による犯行であった。ムスリム系移民二世を主犯とする大規模な無差別殺人事件は人々に恐怖と憤りを与えた。その一方でフランスの国民戦線(FN)に代表される極右政党や排外主義の動きが各地で勢いを得ている。フランスをはじめとする各国の移民政策、欧州共通移民政策、EU各国での排外主義の動き、そして貧困・社会格差などを議論しながら今日のEU各国の社会の実像をみんなで考える。

アクセス

- 東京駅より約1時間30分、羽田空港より約2時間
- 最寄駅

JR八王子駅
京王線北野駅
京王相模原線南大沢駅

各駅よりバスで約15~25分
(野猿峠バス停下車徒歩5分)
各駅よりタクシーで約10~15分

*詳しくはホームページの〈交通案内〉をご覧ください。

